小松じんぶん通信

第2号　令和4年8月　発行
石川県立小松高等学校　NSH担当

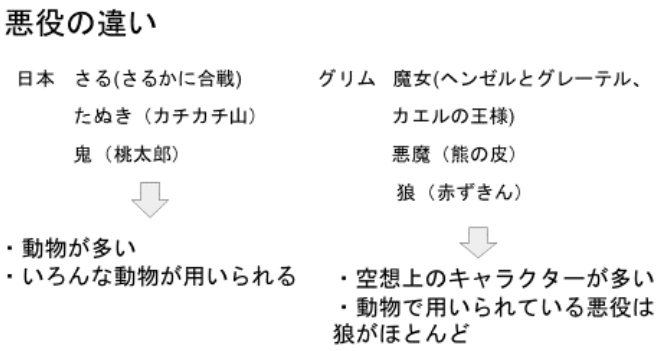
Ｊゼミの中間発表会が開催されました！

●各班、これまでの研究成果を発表しました

７月２６日（火）午後２時より、人文科学・社会科学・国際学の３分野に分かれ、パワーポイントを用いて発表会をおこないました。

人文科学には石川工業高等専門学校の團野光晴先生、社会科学には福井大学の遠藤貴弘先生、国際学には公立小松大学の小原文衛先生を助言者に迎え、多くの建設的なアドバイスを頂きました。生徒同士での質疑応答も充実したものになり互いに刺激しあえる良い機会になりました。今後の研究がより一層充実したものになることが大いに期待できそうです。（以下に発表会で使用したスライドの一部を紹介します。）

人文科学A班：「日本童話の悪役とグリム童話の悪役の違いはなぜ生まれたのか」



グリム童話と日本童話の悪役には違いがあると感じ、そのちがいがなぜ生まれたのか気になった。日本文学と外国文学の比較研究を調べていると、文化的背景が文学の違いに影響していることが多かったので、これらの童話の違いからも文化的違いが見いだせると思い、文化的な側面から考えることにした。

人文科学B班：「豊臣秀吉が朝廷と関係を持ったことがその後の天下統一に繋がったのか？」

位階年表　従 ◀ 正　　五 ◀ 四 ◀ 三 ◀ 二 ◀ 一

	1577	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	94	95	96
豊臣秀吉						従五下	従四下	従三	正二	従一関白					
徳川家康	従四下			従四上			正四下	従三参議		正三参議		従三参議			正二
上杉景勝										従四下		従三参議			
毛利輝元								従五上				正四下			
伊達政宗									従五下						

豊臣秀吉は1590年に天下を統一し、その後も人民を様々な政策を通して支配した。そんな秀吉が突出して優れていた点は軍事面ではなく、対朝廷との関係を強くもつことで他の戦国大名を政治的に抑え込むことができたのではないかと考えた。そこで、秀吉とその当時の有力大名の位階を年ごとに調べた。

人文科学C班：「色で人をコントロールできるのか」

色に抱くイメージの例

青：セロトニン(癒しホルモン)が分泌
→信頼感が高まる
→精神の安定

私たちが何か商品を買うとき、色は重要な基準の一つである。情報取得に使われる知覚機能のうち、83%が視覚であると言われている。それだけ色が我々にもたらす影響は大きいのである。このことから、色は人々の行動や感情に変化をもたらすのではないかと考えた。

人文科学D班：「暗記するときに音楽を聴くのは効果的か」

実験方法

・三宅式記銘力検査を用いて記憶力を測定する
①環境音の中で実験
②アップテンポな歌詞付きの曲を聞きながら実験

⇩

①と②の実験結果から記憶力と音の関係について調べる

班のメンバーの中で勉強するときに音楽を聴く人と聞かない人がいたので本当はどうなのか気になり、研究してみようと思った。「音楽を聴くと暗記するもの以外の情報も入ってくるので効果的ではない。」という仮説を立て、実証実験を行った。

社会科学E班：「ドラえもんは裁けるようにするべきか」

AIについて

人工知能（AI）とは、人間の知的ふるまいの一部をソフトウェアを用いて人工的に再現したものです。

（SAS Insitute Japan株式会社ホームページ参照）

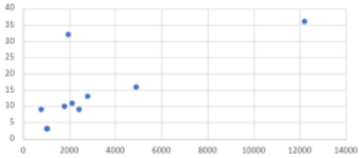
AI(人工知能)が発展し私たちの社会の中で身近な存在となってきている今、AIの行為によって他者に損害を与えた場合誰がどのように裁かれるのか、また、そもそも裁かれうるのかをドラえもんを足がかりに検証してみた。

社会科学F班：「GDPが高い国ほど金メダル獲得数は多いのか」

分析結果

横軸は各国の金メダル獲得数、
縦軸は各国の名目GDP（10億USドル）を表す

2004年　アテネ



国	名目GDP	金メダル数		相関係数	0.732914
アメリカ	12217.18	36			
日本	4893.14	16			
ドイツ	2813.08	13			
イギリス	2422.91	9			
フランス	2116.48	11			
中国	1949.45	32			
イタリア	1805.72	10			
スペイン	1068.57	3			
カナダ	1026.57	3			
韓国	792.53	9			

オリンピックでは、選手の能力の高さだけが金メダル獲得の理由となるのか気になった。また、スポーツには多くのお金がかかるので、オリンピックで金メダルを取れる国には何らかの経済的な理由があると考えたため、この研究をはじめた。

社会科学G班：「日本は30代の首相を輩出できるのか」

分析結果（資料A）

	最年少年齢（歳）	供託金（円）	選挙権年齢（歳）	被選挙権年齢（下院）
イタリア	39	0	18	25
日本	52	300万	18	25

相違点・・・赤　共通点・・・青

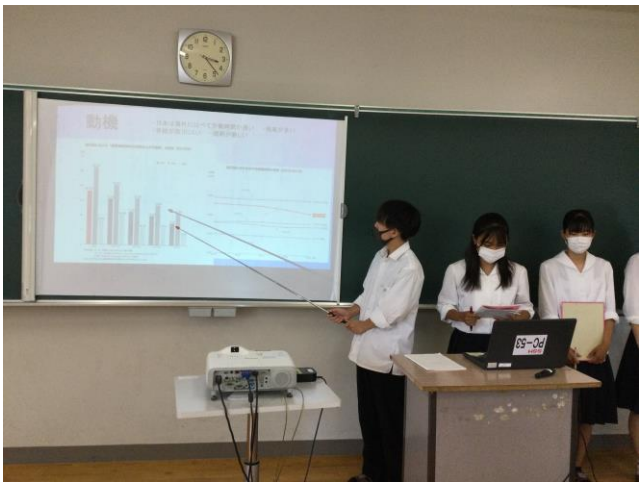
現代の衆議院と参議院では、若い世代の国会議員が少ない。若者の様々な意見が反映されるためには、若者が政界で活躍できる社会にしなければならないという考えから研究に取り組んだ。今回、政治体制が日本と似ているイタリアと比較してみた。

国際学H班「旧ソ連圏における地域紛争は他地域でも起こりうるか」

国と国との関係は何を背景とし、どのように築かれ、どのように変化していくのか。ちょうど今問題となっているロシアとウクライナに注目した。ロシアの歴史的背景や領土変遷、社会主義国とNATOとの関係などの切り口から似たような地域紛争は他の国や地域でも起こりうるのかを検証する。

国際学I班「日本と海外の仕事に対する考え方の違いと今の日本が必要な取り組みとは」

日本は海外に比べて労働時間が長い、残業が多い、有給が取りにくい等の課題がたくさんある。海外の仕事に対する考え方と比較するために、ALTの先生にアンケートを行い、仕事に関する細かな情報を集めた。そしてアンケートから日本と外国の仕事に関する違いと日本に取り入れるべき外国の仕事の取り組みを調べていく。



●各班、助言者の先生からコメントをいただきました！

【人文科学】

<u>團野先生</u>

各グループに次の３点のアドバイスをしていただきました。

・研究の体系の中に入っていくためには、先行研究をしっかりと見ていくこと。
　今はWeb上で研究論文をすぐに見つけられる。PDFで読むことができる。
　基礎・基本文献である「本」を読んで、その分野の基本的な「モノの考え方」を学ぶこと。その分野の大きな考え方の「構え」を学ぶことが大切。

・研究においては、その研究の体系の中での「新見解」が見つかるのが本来であるが、先行研究を追認していって特殊なケースに絞り込んで（特殊なケースに落とし込んで）研究し、論を立てる（研究として成立させる）こともできる。

・今日発表された研究は、どれも面白い視点だった。しかし、まだまだ調べる余地がある。「自分で考える」ことは大切であるが、考えるために読む、読んで考える材料を得ることが大切である。

【社会科学】

遠藤先生

全体を通じて

参考文献および根拠の妥当性を担保すべきである。参考にした資料は「どこ」(政府機関？大学？)の「誰」(教授？責任者？)が「いつ」書いたものなのかを参考文献では確実に示すべきであり、それによって研究の信憑性は大きく左右される。また情報の妥当性や信用性について考えるくせをつけることは課題研究だけでなく、今後、社会に出た際に、契約を交わす場面などにおいては「この情報は適切か」を判断する力になる。批判的思考力の涵養という面から、参考資料や根拠として示す情報の妥当性・信用性を担保することを常に心がけるべきである。信頼のおける情報はまず関連書籍をあたって探し出すとよい。「〇〇新書」などは手に取りやすい。しかし、論文も必ずしも信用がおけるとは限らないので、信用性を確かめるうえで著者(研究者)のこれまでの業績を確認したりすることもある。

【国際学】

小原先生

H班・・・国と国との関係性を探る研究だからこそ、客観的かつ相対的な視点で研究を進める必要があります。もしくは「～という説もあります」「～と述べられている書籍もあります」等、出典を明示し、その内容が不変の事実ではなくあくまでも参考文献からの引用であるという物の言い方も必要です。表やグラフにも出典の明示は必要ですので忘れないようにしましょう。

I班・・・現実を変えたいという思いからの研究は良いですね。せっかくアンケートをとったのなら、そのアンケート内容を正しく提示することも大事です。データや情報が膨大な量になってしまったときは、情報を取捨選択していきましょう。何かと何かを比較する時は、それ以外の条件を揃えて比較するようにしましょう。例えば、日本の一般労働形態と米国のとある業種の労働形態、この比較はよくない。するなら米国の一般労働形態とするべきです。

今後の予定　(変更になる可能性もあります)

●9月28日(水)～29日(木)　関東ヒューマンセミナー

1.目的　首都東京で政治経済の中心業務を担う公的機関や幅広く国際的な活動を展開している機関や企業を訪ねることにより 生徒の視野を広げ、将来日本の中心的な役割や国際的な立場を担うことについて考えさせることを目的とする。

2.参加者　2年生　人文科学コース(21H)　男子19名　女子21名　　計40名

3.旅程(予定)

第１日目　　９月２８日（水）
小松空港集合6:45 小松発 → 羽田空港 → （ＡＢ班）羽田ｸﾛﾉｹﾞｰﾄ / （ＣＤ班）国立東京博物館 → 東京大学 東大Fair Windの企画・学内見学 → 宿所へ 7:45　8:55　14:00　17:0　18:00 宿所（赤坂陽光ホテル）で本校卒業生と懇談
第２日目　　９月２９日（木）
宿所発 → （Ａ班）外務省 / （Ｂ班）東京証券取引所 / （ＣＤ班）野村総合研究所 → （昼食）→ （ＡＢ班）日本科学未来館 / （ＣＤ班）羽田ｸﾛﾉｹﾞｰﾄ → 羽田空港 → 小松空港 9:00　9:30　14:00　15:00　15:30　17:05　18:05 小松空港解散

●12月6日(火)　Jゼミ　プレ発表会(兼学校代表選考会)

●1月17日(火)　Jゼミ　最終発表会

●1月24日(火)　NSH課題研究合同発表会　(県内のNSH校が集まって実施される課題研究発表会です)